

平成 24 年のアユ資源調査結果概要

寺井 章人・遠藤 誠・田中 秀具・井戸本 純一
 ・上野 世司・臼杵 崇広・上垣 雅史

1. 目的

アユの資源水準や成育状況を評価するため、魚群分布調査、産卵状況調査、ヒウオ生息状況調査および成育状況調査を実施した。

2. 方法

魚群分布調査は、1月から8月まで各月1回、北湖の水深30m等深線に沿ったコース上に出現する魚群数を観測した。

産卵状況調査は、8月から11月にかけて6回、北湖に流入する11河川の産卵場においてアユの産卵数を調査した。

ヒウオ生息状況調査は、10月から12月まで各月1回、北湖において網口1m×2mの角形幼生網による1,000mの水平曳きを18回行

い、1曳網あたりのヒウオ採集尾数を求めた。

成育状況調査は、エリとヤナの漁獲標本を収集し、体長および体重を測定した。

3. 結果

魚群数は平年並みに推移したが8月のみ平年の6割程度であった(図1)。産卵数は7億粒と極めて少なかった(図2)。ヒウオ生息密度は、10月~12月の全ての調査で平年の2~3割程度であった(図3)。漁獲魚の平均体長は、エリ・ヤナ共に平年を下回った(図4)。

これらの調査結果は水産試験場ホームページに掲載し、漁業関係者等へ情報提供した。

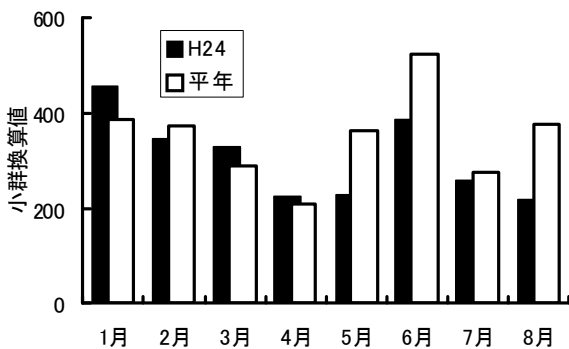


図1 魚群数の推移
 平年値は過去10年から最大・最小および欠測年を除いた平均値

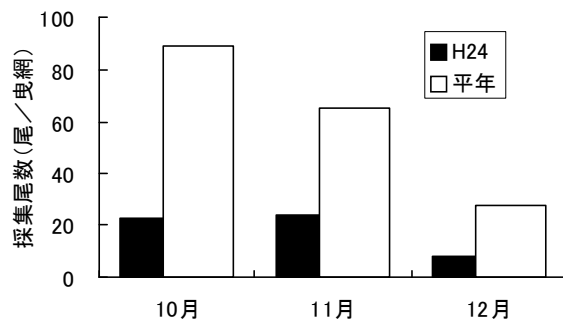


図3 ヒウオ生息密度
 平年値は過去10年から最大・最小および欠測年を除いた平均値

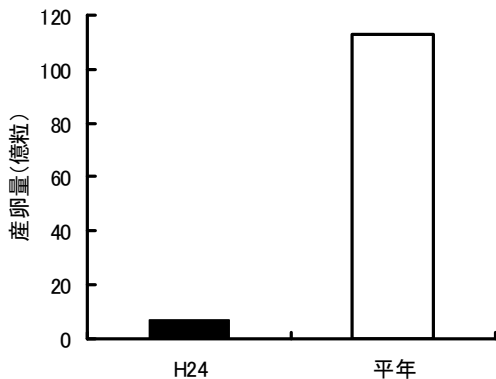


図2 天然河川における産卵数
 平年値は過去10年から最大・最小を除いた8年間の平均値

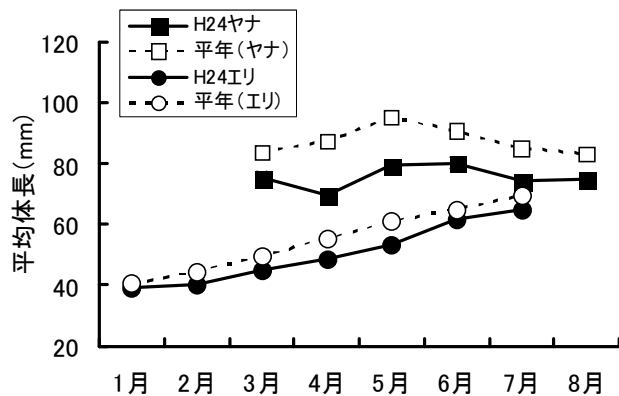


図4 エリ・ヤナ漁獲魚の平均体長
 平年値は過去10年から最大・最小を除いた8年間の平均値